

## クレーン事業強化に向けた組織再編について

デジタル技術を活用した製造・物流現場の課題解決に寄与する産業プロダクトの強化

株式会社日立プラントメカニクス(取締役社長:中尾 剛/以下、日立プラントメカニクス)は、このたびOT\*1、IT、プロダクトの知見を生かして産業の現場の課題解決に寄与すべく、産業機械システム事業の中核であるクレーン事業の拡大に向け、2020年度の事業再編に着手します。

日立プラントメカニクスは、2019年4月に、産業分野のプロダクト事業として非量産系の株式会社日立インダストリアルプロダクツのグループ会社となり、クレーン、産業プラント用機器、温湿度環境試験装置、プリント基板製造装置、ロジスティクス関連製品の製造・販売およびアフターサービスを事業展開してきました。

このたび、クレーン事業、ロジスティクス関連製品事業およびアフターサービス事業に特化し、経営資源の集中を図ります。これにより、産業プラント用機器事業、温湿度環境試験装置事業、およびプリント基板製造装置事業については日立グループ内外への事業再編を行います。

これに伴い、3か所に分散している弊社製造拠点を佐野工場(栃木県佐野市)に集約し、笠戸事業所(山口県下松市)は撤退、葉山事業所(同左)を閉鎖します。

なお、産業プラント用機器事業のうち、化学機器および薄膜蒸発器の製品・アフターサービス事業は宇部興産機械株式会社(代表取締役:宮内 浩典)に事業譲渡します。また、温湿度環境試験装置の製品・アフターサービスおよび産業プラント用機器事業のうち医薬プラントのアフターサービス事業は株式会社日立プラントサービス(取締役社長:中津 英司)に事業譲渡する方針であり、現在、株式会社日立プラントサービスと協議しています。この度の事業再編はプラント用機器業界の発展に寄与できるものと考えています。

日立プラントメカニクスは、天井クレーン市場(国内)\*2のうち約15%のシェアを有し、作業現場における安心・安全を重視した製品開発を進めており、お客さまから高い評価をいただいております。工場などで使用される天井クレーンにおいては、従来熟練者の経験と感覚によって安心・安全、作業効率を考慮したオペレーションが行われてきましたが、これから国内の労働者は年々減少することが見込まれ、特に製造業界では労働者不足や熟練オペレータの減少による生産性の低下が社会課題となります。日立プラントメカニクスではこのような新設市場の課題に対応するため、AIがオペレーションスキルを自動的に獲得し、人のオペレーションを支援する独自技術や安心・安全の実現、ライフサイクルコスト低減に向けたデジタルソリューション技術により、OT、IT、プロダクトを融合させた製品開発に力を注ぎ、お客さまの生産性向上の実現をめざします。そして、クレーンの自動運転の実現や予防保全等の拡充により、お客さま業務へのより一層の貢献を図ります。

日立プラントメカニクスは、事業の選択と集中により、自社の技術的な強みが発揮できるクレーン事業に特化し、さらなる事業の拡大を図っていきます。

\*1 OT: Operational Technology(制御・運用技術)

\*2 2018年度経済産業省生産動態統計年報機械統計編より出典

### ■お問い合わせ先

株式会社 日立プラントメカニクス

部署名 [担当:管理部 中野]

〒170-6039

東京都豊島区東池袋三丁目1番1号(サンシャイン 60 39 階)

電話番号 03-5956-1313(直通)

以上